

# 茅ふきたより



## ITS（国際茅葺き協会）2015 総会報告

→→→→→

カンファレンスでは参加各国における、主に事業としての茅葺きの現状と課題、将来に向けての取り組みが報告され、活発な質疑応答がなされました。プラスチック製の茅の導入が茅葺き屋根の品質向上に繋がるとするオランダからの報告等、お国柄の伺える興味深い内容については、資料として提出されたレジュメの和訳を本号に載せていますのでご参照ください。

個人的には難燃性の茅葺きの開発と、環境に優しい農業としての茅の栽培の奨励、教育現場での取り組みを get thatch back to the city を目標に掲げて進めているというデンマーク茅葺き協会のプレゼンが印象に残りました。

日本からは本会正会員尾坂勝氏より日本の茅葺きの特殊性について報告がありました。

2015年9月9日～12日 スウェーデン南端の海沿いに建つ Smygehus Hasbad スミীগハスホテルを拠点に ITS（国際茅葺き協会）の総会が開催されました。

ITS は日本を含む世界7カ国の茅葺き事業者の団体を会員とし、デンマークに事務局を置いて活動しています。総会は隔年で開かれており、スウェーデン大会には日本茅葺き文化協会からも理事4名、会員5名が参加しました。

International Thatching Society  
<http://thatchers.eu/content/>

も く じ

|    |                       |    |
|----|-----------------------|----|
| 08 | ITS（国際茅葺き協会）2015 総会報告 | 01 |
| 07 | ITS 各国の現状と課題（イギリス）    | 05 |
| 06 | ITS 各国の現状と課題（ドイツ）     | 06 |
| 05 | ITS 各国の現状と課題（南アフリカ）   | 07 |
| 04 | ITS 各国の現状と課題（デンマーク）   | 08 |
| 03 | ITS 各国の現状と課題（スウェーデン）  | 09 |
| 02 | ITS 各国の現状と課題（オランダ）    | 10 |
| 01 | ITS 各国の現状と課題（日本）      | 11 |
|    | 第4回茅葺きの里見学研修会報告       | 12 |
|    | イベント情報                | 16 |



午後からはエクスプロレーションとしてスウェーデン南部スコネ地方を巡りました。

最初に訪ねたBörje はかつての漁村で、今はサマーハウスや週末住宅としての利用が人気とのこと。ヨシで葺かれた屋根の棟納めは、くしゃくしゃに絡ませた小麦藁や海草を櫓のウマノリで押さえているだけ。傷み易い箇所を直し易い仕上がりとする工夫。不揃いな割り木のウマノリが良い味出しています。

村内の道路は未舗装で関係者以外の車両は進入禁止。貴重な古民家の集落が、観光地ではない暮らしの場として大切に使われていて、とても良い空気が流れていました。

緩やかな起伏の続くスコネ地方を、そこに点在する風力発電用風車と茅葺き民家の間をバスに揺られて次に案内されたのは、伝統的な農場をまるごと、建物だけでなく伝来の農法も保存しているÖstarp 文化センター。ちょうど葺き替え中の小麦藁葺きの屋根があり、各国からの参加者＝茅葺き職人たちが群がるなか、日本からの参加者も古い時代の道具を用いた仕上げに興味津々でした。

最後に本総会のホストであるスウェーデン茅葺き協会の会長さんの会社へ。大

きな茅葺きの茅倉庫で夕食と「茅葺きオリンピック」。茅束を放り投げる距離や正確さを競うなどしました。日本チームは惨敗でしたが、楽しく濃密な語らいのひとつでした。



エクスプロレーション2日目は国境の海峡を橋で渡り、デンマークへ。コペンハーゲン郊外の野外博物館は、その名もFrilandsmuseet、英語ならThe Open Air Museum。世界でも最も古い野外博物館のひとつであり、40 haもの敷地にデンマーク文化圏各地から移築された、民家を中心とした80棟を超える歴史的建造物が。ホールでのレクチャーの後自由散策となりましたが、とても一日ではまわり



切れませんでした。

非常に感心したのは様々な地域や時代に基づく多様な建築材料が、オリジナルに忠実に修復が重ねられており、かなりの程度が敷地内で自給されていたことです。茅葺き屋根であれば、ライ麦葺きの家の周りに広がる畑では収穫を迎えたライ麦の積み藁が見られ、ヘザー葺きの家の周りの放牧地には羊が放たれ、ヘザーの茂みに紫色の花が咲いているというように。古民家を標本的に並べるのではなく、く、広い敷地を活かして伝統的な営みと、それを重ねて産み出される景観そのものを

を展示していました。

最終日には体験型のイベントがいくつか用意されました。なかでも衝撃的だったのは、バルト海のゴットランド島でかつて行われていたセッジ葺きを再現するワークシヨップ。セッジ Sedge はカヤツリグサ科の高茎草で、イギリスでは茅葺き屋根の棟納めに使っていました。セッジ葺きはセッジを大勢で踏み固めつ



つ積み上げて行くという豪快なもの。

ヨーロッパの茅葺きという現代建築に葺かれたり、新しい技術や材料を開発し

たりと先進的な印象がありましたが、野外博物館のような場所が伝統的な文化を継承する場として、建物だけではなく行為を保存し、そこに込められた想いを伝える努力が為されていることで、文化財が迷った時に立ち返る指標として意味を持ち、新しい事をする時には思い切ったチャレンジが為されるようになるのかもしれない。

会期中有意義な楽しい時間を過ごさせて頂きました。ホストであるスウェーデン茅葺き協会と I T S 理事のみなさん、ここに集った全ての関係者の皆様に感謝の気持ちを申し上げます。

今回の I T S 総会は 2017 年にイギリスで開催。次々回について日本での開催が検討されています。開催決定の折には、今回のような実りある集いとなるよう、僕かでも尽力する事でこの気持ちを示すことができたらと思います。

最後に、閉会後に日本からの参加者 4 人でレンタカーをシェアして、デンマーク北端近くにある離島 Læsø を訪ねて来ました。ここにしかないという海草葺きの屋根をどうしても見てみたくて、十数年来の想いを叶えて来ました。

実際に見て、触ったそれは決してゲテモノではなく、その土地にある草で、最も

合理的な屋根を葺くという、茅葺きの定義に従った美しい存在でした。耐候性に加え耐火性にも優れたそれは、むしろ夢の茅かもしれません。

こちらにおいても、メールを取り次いで下さった Penile さんと、海草葺きのオーソリテイで滞在中の便宜を全て取り計らって下さった Heming さん、そして同行してくれた友人 3 人あつての旅でした。あらためて感謝申し上げます。

(理事 茅葺屋 塩澤 実)





各国の発表者（イギリス、ドイツ、デンマーク、スウェーデン、南アフリカ、オランダ、日本）



カンファレンスで各国の茅葺きの現状と課題を報告



スウェーデン Böste のサマーハウス



ITS 理事会の様子



スウェーデンの職人の道具



スウェーデンの住宅



参加者が1人1枚屋根の写真を持ち寄って行う写真コンテストで、日本からの1枚が優勝



デンマーク野外博物館での技術交流

ITS 各国の現状と課題 (イギリス)

## 英国の茅葺きの現状



英国にいたる茅葺き職人は、現在、おそらくこの数年で最も多忙であろう。

英国での茅葺きの方法は、基本的に世界中どことも同じで、屋根にオーガニックな材料を水が漏れないように使い、ある程度の期間保たれるようにしている。私たちは、主に小麦藁とヨシの二つの種類の材料を利用している。小麦藁は、処



理方法によって麦藁 (Long Straw) と梳いた小麦藁 (Devon Reed/Combed Straw) の2つあり、さらに、たまにヘザーやスゲも使われる。

英国の茅葺き屋根をユニークにしているのは、棟の仕上げ方にある。茅を棟に向かつて葺いていくと、最後の層は雨が浸透して被害がでないようにカパーをする必要がある。棟には、余分にスゲか小麦藁の層を葺き、それをハシバミか柳の枝で固定して、装飾的な棟を造りあげる。ここで、職人は、枝をユニークな模様<sup>注1</sup>に型どったり、スカラップ形、菱形や大きな波線状にしてデザインを造ることで自分のトレードマークを残すことができる。

英国には、数百年前から伝わる、英国

の茅葺き職人たちが大事に保護してきた歴史的建造物がたくさんある。彼らの仕事を研究し、最高と思われる材料を選んできたおかげで、茅葺きの品質が改善され、今日見られるものに発展した。これらの古風で風情ある建物は、たとえ小さな民家であろうと、大きな納屋であろうと、中世の教会であろうと、時々復旧作業を必要とする。

しかし現在、茅葺きも英国の規制に従って作業をしなくてはならなく、新しい建物に茅を葺くときには、建築基準に適合しなくてはならなく、古い建物の葺き替えも国の環境保護政策に従わなくてはならない。

英国では、茅葺きの最大の損失原因は火事であり、年間約50棟が失われる。主



な原因は、煙突関連であり、その数件は煙突から出る火の粉であるが、大半は茅葺き屋根の深い箇所での熱の伝導である。深いとは、何層もの茅を重ね、時には1.2mの厚さのある茅葺き屋根を意味し、煙突を冷やさないとどこか煙突の壁に茅が発火するほどの熱をもたせてしまうことがある。

個人住宅であろうと集合住宅であろうと、新しい建築物には、建物の外部に火事による損害のリスクがないように対策がとられている。茅葺き屋根は、いわゆる「使い捨て (sacrificial)」つまり「建物全部を失うよりは、覆っている屋根だけを失う方がまだましである」という考え方である。それは、家の中の火が茅葺き屋根に燃え移らず、また、茅葺き屋根の火や消防の放水が下の建物に損害を与えないようにするための耐久性のある物理的なバリヤーとなる防水板を設置することによって達成できる。

私たちは、過去の歴史に誇りをもっており、今日の所見、研究結果や考え方を実践に移す機会を楽しみにしており、私たちの先祖が未来を伝授してくれたように、今後もこの伝統が代々継承されていくことを期待している。

(Nigel Tunton)  
注1 スカラップ形：レースの縁に見られるホタテ貝殻のような波模様



# ITS 各国の現状と課題（ドイツ）

茅葺き屋根は何世紀にもわたってドイツの北部地方の文化に根付いており、今日でも当地方の景色を形づくっている。

茅葺きの技巧は、大変伝統的なものである。

ドイツの北西の街、フームスには1948年に始まった唯一の茅葺き職人のギルドがある。他の地方の茅葺き職人は、屋根職人と茅葺き職人を一人が兼任しているため、屋根職人のギルドを作って入っており、その中で数人はフームスの茅葺き職人のギルドのゲストであった。



実際には、茅葺き職人のギルドは2つ（メクレンブルク・フォアポンメルンと、シュレースヴィヒ・ホルシュタイン）あり、正会員55名、名誉会員6名、商人6名とドイツの国中から来ているゲスト5名である。

ギルドの上組織は、連邦専門家委員会 "Bundesfachgruppe Reet" であり、それは屋根職人中央協会 "Zentralverband des Deutschen Dachdeckerhandwerks" の中にある。

茅葺き屋根の早すぎる腐敗が増えたので、2006年に、OSR Society for Quality Assurance Ltd (品質保証をする協会) と共に、North German State Guild of the Roofing Trade (ドイツ北部地方屋

根業者のギルド) が研究とPR活動を実施する組織として設立された。

グライフスヴァルト大学とブラウンシュヴァイク大学は、すでに多くの広範囲にわたる研究結果を発表している。研究はまだ終わっておらず、ヨシの品質改善の研究を継続して実施している。

これまでの経験でも明らかなのは、一つの大学独自の研究のみで成功することはなく、様々な研究結果が、私たち全員の一つの目標に到達させてくれるのである。

アシの成分や茎の品種の分類、そして商品の明確な定義も必要不可欠である。近い将来、多くの時間を費やして製品データシートの活用を実行し、さらに、すべての業者や生産者にも義務づけるべきである。

もう一つの材料は Miscanthus (ススキ属) である。この植物は、流水にも溜り水にも生息し、自然保護協会の縛りもない。農地で栽培され、生産者によって扱いやすい作物である。何人かの茅葺き職人が使ってみて、2〜3年後の現在、とても良い結果がでている。何種類かあるが、長年デンマークで使われているものを使用しており、大変良好である。新種がドイツで開発されており、その結果も楽しみにしている。

現在、ドイツでは注文が多く入っている状況である。多くの職人は、年明けまで仕事の予約がいっぱいである。私たちは、出張してくれる茅葺き職人や見習いを求めている、ポーランド、ハンガリー、ラトビア、リトアニアやエストニアのような近隣国の同僚たちにも頼んでいる。これだけ多くの仕事依頼があることの唯一のマイナスポイントは、アシの品質が甘くないかということである。

しかし、茅葺きを未来の屋根素材として発展させるには、まだまだ多くのアイデア等が必要である。

(Karin Jacobs)  
ドイツの屋根業者に關しては、左記を参照：

[www.dachdecker.de](http://www.dachdecker.de)

[www.reetdachdeckung.de](http://www.reetdachdeckung.de)



## ITS各国の現状と課題(南アフリカ) 南アフリカにおける茅葺き 業界の現状



南アフリカにおける建設業界は、一般的に堅調であるが大変不安定でもある。茅葺き業界も同様である。大きな要因となる経済情勢に加えて、政治的安定や海外の投資家の気運、そして建築物の流行等すべてが南アフリカの茅葺きの需要に影響を与える。

茅葺きの仕事は主に2つある。現存の屋根のメンテナンスと新しい茅葺き屋根の設置である。

メンテナンス(補修)ビジネス  
この市場の大きな強みは、1994年〜2008年の期間に膨大な数の茅葺き屋根が新しく設置されたことである。これは、1994年以降の住宅市場において外国人投資家が高い伸びを示したことと、観光産業が高い伸びを示したことによって促された。200軒近くの高級民家の建設が検討され、ハンティングロッジ等その他の大規模な観光施設が建設された。

一件1万<sup>2</sup>m<sup>2</sup>に及ぶ茅葺きプロジェクトも珍しくなかった。多くのホテルやロッジはこの時期に建設された。

これらの屋根は寿命とされる20年目が近づいており、業界にとっては、今後これらの屋根の葺き替えが主な仕事になるであろう。

残念ながら、この市場はあまりきちんと規制されておらず、品質管理は不可能である。このセグメントで起きた粗悪な仕事内容が最大の問題で、残念なことに茅葺き屋根はメンテナンス・コストが非常に高いという認識を助長させている。

皮肉にも、この市場のセグメントには好機であるはずのことが、逆に新しい茅葺き屋根の注文の低下を招いているのである。

新しい茅葺き屋根設置のビジネス

民家における現在の建築の流行は、伝統的なものや田舎風な建築物から離れつつあり、モダンな材料を用いたものへと移行しつつある。茅葺き屋根のメンテナンス・コストが非常に高いと思われることも、この流行を後押ししている。さらに、大きな火事の件数も、我々にとってマイナスに影響した。2011年に施行された火事と省エネに関する新しい建築基準は、検討中の新しいプロジェクトの件数に直接影響を与えた。これらの問題は、TASA (The Thatchers

Association of South Africa) によってうまく処理されてきていて、最近ではそれほど問題ではない。

新しい大型プロジェクトは、主に観光業界とハンティングロッジ等の仕事である。これらの市場は、政治的安定、安全と警備の観点から、大変不安定である。

南アフリカは、信じられないほど天然資源に恵まれている。その需要は常に続いていくと思われ、このセグメントでの茅葺きをサポートすることになるであろう。

TASAの役割と会員

国の建築基準施行に関わる。

2015年11月には、TASAは10周年を迎える。

この時期の最大の仕事は、この協会を意味のある、そして持続できる協会にすることであった。業界の規模からすると会員数は比較的少ないが、会員は審査で選ばれており、すべてのトップ企業はTASAの会員である。今日南アフリカで作られている茅葺き屋根の大半は、TASA会員の仕事である。すべての茅葺き職人を会員にするために、まだまだやることは沢山あるが、TASAが会員に要求する高水準を保持できるように努めている。

TASAは、新しい建築基準をまとめることと、これらの基準が正しく施行されるように国民、自治体と専門家の教育にも中心的な役割を果たした。

過去10年間で、ITS2014はTASAの活動のハイライトであった。TASAはITS2014のプラス効果を、この先何年も感じ続けるであろう。

"Guide to Thatching"の編集

2014年からTASAは"A Guide to Thatching in SA"を仕上げることに力を注いできた。もうすぐ完成であり、これは業界の成長に大きく貢献すると信じている。この件に関しては、別紙の記事を参照のこと。

最後にまとめると、南アフリカの茅葺き業界は大変面白いがやりがいがある。私たちは、信頼ができ、かつ高品質にこだわる茅葺き職人には、まだまだ十分に仕事があると確信している。

(Abrie Visagie)

ITS 各国の現状と課題（デンマーク）  
デンマークの茅葺き職人は、正しい方向に向かって  
いる



デンマークでは現在、茅葺きを最も持続可能で気候に優しい屋根として市場に出している。さらに、次のことも同時に伝えている。

・防火対策をとれば、大きな火事の危

険性はない。

・最も順応性があり美しい屋根を自分のものにできる上に、他の屋根よりそれほど高額ではない。

私たちの努力の結果が実りだし、産出量も上がっており、今では近代建築物にも取り入れられている。

私たちには大きな目標がある。それは、2023年までに年間の茅葺き使用平方メートルを2倍にすることである。この目標を達成するには、都市部にも茅葺きの建物を増やす必要がある。私たちの「茅葺きオフィス」は、国の中で最も進歩的なグループの建築家と共同で仕事をしており、国で二番目に大きい都市であるオーフスの中心に、近代的な茅葺き屋根のパビリオンの建築を提案している。2017年にオーフスはヨーロッパの文化首都になる。この大きなイベントには、我が国の首都コペンハーゲンやヨーロッパから観光客が集まるであろう。

このパビリオンは、熟練した茅葺き職人の指導のもとに、茅葺きの研修生とオーフス建築学校の学生によって造られる。パビリオンの建築と茅葺きの行程そのものも、イベントになると思っている。そして、完成されたら、この伝統的な技能を披露するすばらしい機会になるとも思っている。

私たちは、デンマークにある4万軒以



上もの古い歴史的な茅葺き建築物をとて重要視している。私たちの主な収入源でもあり、仕事でもある。しかし、将来的には、私たちの仕事と教育を確保するために、もっとそのような建物、新しい建物、オランダに見られるようなモダンで斬新な建築物を必要とするので、私たちの活動の大半は近代的な茅葺きに集中している。

最近、デンマークの大きな建築会社が、あるコンペで優勝した。それは、自然公園の新しい展示センターで、2500平方メートルもの茅葺きを使用する建物である。建築主が持続性を求めたので、この会社は茅葺きの屋根と壁を提案した。この会社は40社中での優勝者であり、この建築物はデンマークで垂直茅葺きと茅葺き壁でできた最大のものとなるであろう。

私たちは自分たちの屋根の利点を広めることのできるプロジェクトに常に関わ

るようにしており、この一年以内にEPD環境製品宣言も完了する見込みである。新しい燃焼試験を実施し、茅葺き屋根は防火対策がとられていれば耐火性があることを証明した。屋根の断熱値の証拠資料に関しても活動しており、さらに、農家にもっと多くのススキ (miscanthus) を育てるように奨励している。

当社では、このススキのプロジェクトが一番大きな活動である。ススキは殺虫剤を使わずに栽培できるし、土壌の養分を無駄に奪わないので、国立環境庁の公的資金の援助を受けている。またこのことから、飲み水を守るためにも大変優れた作物でもある。

よって総合的にみて、新しい顧客を得るには、やはり環境論を持ち出すのが一番良いと感じている。同時に、茅葺き屋根の民家を今日より近距離間に建てることのできるように、関係当局に規制の変更を求めることが、非常に重要である。私たちは、2軒の家の間の距離は10メートルを希望するが、現在は20メートルと決まっている。次回皆さんに会う時には、都市や近郊に茅葺きを戻すのに障害となっているこの規制を取り払うことができていることを願っている。

（デンマーク茅葺き協会 Joergen Kaarup）



ITS 各国の現状と課題（スウェーデン）  
スウェーデンの茅葺き職人  
によって茅葺きの伝統は守  
られている

スウェーデンで開催のITS 国際茅  
葺き協会の2015年総会によるこそ。  
スウェーデン茅葺き協会が伝える現状  
は、以下の通りである。



スウェーデンの茅葺き文化は、20世紀  
末に途絶えそうになった。1970年代  
にはスウェーデン人茅葺き職人はたった  
3人しかおらず、しかもその全員が高齢  
であった。しかし、幸い数人の若者が名  
人達から技術を学んだのをきっかけに、



自然や農場生活へのロマンスが流行し、  
茅葺きの技術は生きた伝統として生き  
残った。さらにちょうどその頃、幸運に  
もデンマークから茅葺き職人たちが、ス  
コーネ地方の伝統建築を守るために海を  
渡ってきてくれた。その中で、こちらで  
の茅葺きの仕事が儲かると感じた職人達  
が、そのまま居残ったのであった。

茅葺きの仕事はまだ存続しており、ス  
ウェーデンには30人以上の茅葺き職人が  
いる。ほとんどの職人は、小さいながら  
も個人経営で、1社のみ10人以上の従業  
員を抱えている。スウェーデンの協会  
(svenska takäckarföreningen) には、23  
社の茅葺き会社が登録されており、年間  
3万㎡以上の仕事をしていると思われ  
る。

茅葺きの仕事の大半は、屋根の葺き替  
えであり、古い農家やそのような民家の  
レプリカである。スウェーデンでは、茅  
葺きの伝統は、昔から農家の屋根がすべ  
て茅葺きであった南部の方が人気があ  
る。正式な記録はないが、おそらく5千

軒の茅葺き屋根が残っていると思われ  
る。

ライ麦の藁とヨシの両方が、茅葺き  
の材料として使われている。歴史的に  
は、その時に手に入る材料を使っていた。  
ゴットランド島では、*göte*と呼ばれるス  
ゲの一種（ヒトモトススキに似る）で、  
痩せてミネラル分の豊富な土地によく見  
られるものを使う伝統がある。現在では、  
主として水葦が使われている。

水葦は、ほとんどの湖やバルト海の海  
岸沿いに生えているが、商業的な収穫は  
トーケン湖でしか実施されていない。国  
内産の材料では足りなく、多くは、ポー  
ランドやエストニアから輸入されてい  
る。主に2つの輸入業者を使っている  
が、一部の葦はデンマークの業者を通じ  
て入手しており、茅葺き職人によっては  
独自に輸入している。現在、ある輸入  
業者は、水葦の品質を保証するために  
“Thatchmark”を使用している。

昔はライ麦パンを食べていたので、



伝統的に茅葺き用の藁はライ麦を使っ  
ていた。折よく、スウェーデン政府が  
riksantikvariebudet（国の世界遺産局）  
を通じて、伝統的な茅葺きの技術と材  
料を守るプロジェクトをスタートした。  
そして“halmrak”という本の出版によっ  
て、伝統的な茅葺きの技術が多く紹介さ  
れた。これによって民家は、地元の技術  
で葺き替えを申請することが可能になっ  
た。少なくとも3人の茅葺き職人が、自  
分のところで栽培している藁を使ってお  
り、大昔の古い茅葺きの技術を受け継い  
でいる。

近代的な茅葺き建造物を造る試みもい  
くつか成功している。例えば、スウェー  
デンでおそらく最大の茅葺き民家や、  
トーケン湖畔に建てられた有名建築家の  
ゲルト・ウインゴードによる近代的な展  
示会館などである。両方とも、茅は水葦  
を使っている。

私たち少人数の茅葺き職人の目標は、  
次の通りであり、すべきことであり、な  
すことのできることもある。

―後世に茅葺きの技術、職人と材料を  
残し、発展させること。

―文化的環境を守り、発展させること。  
―美して、環境に優しい、最高の屋根  
材料を提供すること。

（スウェーデン茅葺き協会会長

Michael Andersén）

## ITS 各国の現状と課題（オランダ） オランダの茅葺き



オランダの茅葺き市場は、経済危機後、通常の軌道に戻ったようである。大半の茅葺き業者は、なんとか危機をしのいだようだが、競争は大変厳しかった。多くの茅葺き業者は、2015年7月に終了したVAT付加価値税6%（その後21%）のうちに仕事を完成するため、非常に忙しかった。その後仕事があるかどうか心配したが、市場はさらに改善しており、今では仕事をこなすための人材確保を心配している状況である。オランダの茅葺きは、未だに別荘、納屋、公共施



設などの葺き替えや新しい茅葺き屋根の設置である。

経済危機と激しい価格競争は、投資に影響を与えた。業者は、最小限の必要な投資しかなかった。不況の時に、人や教育に投資するのは、まさに勇気と先見の明がなくてはできない。大半の業者は、協力し合ったり、一時的に雇用できるような融通のきく職人を囲い込んでいる。現段階では、茅葺き職人の教育と育成は、市場に対して遅れをとっている。市場がさらに改善されたら、熟練した職人の要望が増えることを期待している。

危機にも関わらず、Novaric社の業績は伸びた。<sup>注2</sup> 人工アシを生産しており、経済的に独立した会社であり、マーケティングに多くの投資をしてきた。見本市や展示会やソーシャルメディア等を通じて、興味を示している消費者のグ

ループにアピールすることに成功した。Vakfederatie Rietdekkers（屋根職人組合）とNovaric社は、双方の利益のために協力することを探ったが、残念ながら組織の構造的違いから、良い結果を得られなかった。

自然素材の茅葺き屋根よりも2・5倍の価格にも関わらず、ますます多くの消費者はNovaricの屋根に興味を持つだけでなく、実際に購入している。消費者が、自然素材の茅葺き屋根よりもNovaric社の物を選択するには、いくつかの理由がある。

―茅葺き屋根の品質と耐久性に関する確実性

―過去の自然素材の茅葺き屋根での不具合や不快な体験

―メンテナンスが不必要（しかし、

Novaric社の屋根は緑色に変色する）

―新しく近代的な商品への好み

この商品は、まだ一年しか市場に出

回っていないので、将来的に問題があるかどうかまだわからないが、Novaric社は存続するであろう。不良品の自然素材の茅葺き屋根が出回らなくてもNovaric社は市場のシェアを獲得したであろうが、良質な茅と研究の重要さはますます明らかにになったと言える。

（Henk Horings）

注2 人工アシ：プラスチック複合材で作られた茅葺き用のストロー。Novaric社の説明によると可燃性でリサイクル可能な素材とされ、80年間は通常の茅葺き屋根のようなメンテナンスを必要としないという。



# ITS 各国の現状と課題（日本） 日本の茅葺きの現状と課題 一般社団法人日本茅葺き文化協会



## 茅葺き民家の数と減少傾向

日本の茅葺き屋根は、社寺建築と民家に大別される。その両者の中で茅葺きの材料や技術は大きな違いはないが、単価や維持管理の方法は異なる点も少なくない。また社寺建築は文化財として保存の手だてが講じられている場合が多く、現代の建築基準法の適用を除外されることが可能である。従って現代の日本に置ける近代化と都市化のなかで、茅葺きの直面する課題を考える上で、民家の茅葺きにより深刻な影響を受けている。そこでここでは民家の茅葺きにしばって報告する。

日本は第二次世界大戦の前までは、稲作を中心とする農業国であり、国民の3分の2は農民であった。その農家の半分以上が茅葺きであったと推定されるの

で、1950年の頃は日本の民家の3分の1は茅葺き屋根であり、その数は約500万棟と推定できる。戦後日本は工業化に転じて急速な都市化が進んで、農村は衰退の一途をたどった。農業自体も近代化が進み、農耕用の家畜の飼育も大幅に減少し、緑肥も化学肥料に変わること

で、草の資源に基づく農業体系が近代化された。それに伴って屋根葺き材料も瓦や金属板等の工業材料になる。こうしてこの50年の間に茅葺き屋根は激減し、わずかに数%、10万棟から20万棟を残すに過ぎない。そのうち文化財として保存策が講じられているのは1万棟以下であり、その他の多くの茅葺き民家はこのままでの減少傾向が続くと20年後にはほとんどその姿を消す危機的状況にある。

## 茅葺きの材料

日本の茅葺きの材料は地方や時代によつて変わるが、ススキ、ヨシ、小麦ワラの3種類がよく使われ、中でもススキが最も多く、過半数がススキである。これら以外にチガヤ、カリヤス、ササ等も用いるがその割合は数%以下である。戦後の食料不足の中で、農地が拡大され小麦が増産された結果、茅場が減少して、小麦ワラ葺きが一時的に増えたが、近年は小麦生産が減少し、茅葺き屋根自体も減ったので、現在はススキとヨシが大半

を占める。その耐久性は、地域や葺き方によっても異なるが、ヨシは30～50年、ススキは20～30年、小麦ワラは10年である。

## 茅葺き職人

日本に茅葺き職人組合は存在しない。文化財の屋根を葺く職人の団体、全国社寺等屋根工事技術保存会があるが、その加盟者が法人27社で個人12名で内茅葺き職人は法人8社で個人3名である。日本茅葺き文化協会は茅葺き職人の組合ではないが、茅葺き職人の加盟者は団体10社で個人20名で、職人数の合計は75名である。1995年に文化財建造物保存協会の調査によると全国で茅葺き職人の数は1320人確認されている。しかしその年齢は60歳未満は約10%であった。20年後の現在、その10%の職人が仕事を継続しているとしても、最大132人である。

また、現在日本茅葺き文化協会に加盟している職人は、その後に職人となった概ね50歳以下の若い職人である。この若い世代がこれからの日本の茅葺きの担い手となる。

## 今後の課題

日本列島は南北に細長いので、その多様な気候風土に対応して、茅葺き屋根は地域的な多様性が高い。日本茅葺き文

化協会では、その技術の継承を図るために、映像や写真、図面による記録の作成に取り組んでいる。

茅葺き民家は農家としての利用を継続するだけでなく、地域の福祉教育施設や観光施設あるいは別荘としての活用が模索されている。それを進展するためにはまず、茅葺き屋根の優れた特性、資源としての茅場の地域環境保全や生物多様性への寄与、茅葺き屋根景観の文化的観光的価値及び茅葺き屋根の優れた居住性を明確にして、広く一般市民に理解を深めることが必要である。

次に文化財として伝統的な技術を継承する一方で、コストを勘案してより簡略な茅葺きへの合理化を図る必要がある。また伝統的に茅葺きであった民家や社寺建築の他にも、公共施設や商業建築にも茅葺きの可能性の拡大を図る。そのためには茅葺きの屋根の防火上の法的規制が必要以上の地域に拡大している現状の改善を求めていく必要がある。

（代表理事 安藤邦廣）



## 第4回茅葺きの里見学研修会報告

風土の記憶を継承する  
茅屋根を巡って

柳沢道生

2015年10月11日(日)～12日(月)

祝)、日本茅葺き文化協会主催の第4回茅葺きの里研修見学会が開催された。「蔵王・吾妻山麓の茅葺きを巡る」と題し、宮城県荊田郡七ヶ宿町、山形県上山市、米沢市、高島町、川西町の茅葺き建築を訪れた。

11日朝10時、東北新幹線白石蔵王駅に北は岩手、西は福岡からの15名が集合、バスで最初の目的地七ヶ宿町に向かった。車中、安藤代表理事から七ヶ宿町が安藤家のルーツにあたることを紹介された。安藤代表理事の出身は仙台市だが、お父上は七ヶ宿町で生まれ、代表理事の幼少期、旧道を通った山越えのバスで幾度か七ヶ宿町を訪れたことがあるとのこと。

バスは国道113号を西に進む。七ヶ宿ダムを過ぎ、県道51号に入り北に向かう。ほどなく横川せせらぎの里に着く。大きな民家・高橋家、今は金属板張りだ

が、つい先日まで茅葺きだった。周囲に茅葺きの民家が2棟、いずれも荒廃が見られるが1棟は現住だという。集落の道端には水路があり、その上に小屋がある。これは民家の台所で、蔵王からの清流が天然の冷蔵庫の役割を果たしている。売店で当地の名物、食用菊・もつてのほかを試食、これはいけると早速購入した。

国道113号に戻り、七ヶ宿町滑津へ。茅葺きの蕎麦処・吉野屋で昼食。その後、道の向いの七ヶ宿本陣・安藤家を見学。現在の国道113号はかつての羽州街道、奥羽13藩の藩主が参勤交代に際して宿とした茅葺きの屋敷である。



国道113号から旧羽州街道のルート、県道13号を北上、金山峠を越えれば山形県だ。しばし進むと茅屋根が見える

集落に入る。上山市檜下(ならげ)、羽

州街道檜下宿である。上山市教育委員会生涯学習課 井上課長、斉藤氏、檜下宿保存会佐藤会長、檜下宿研究会木村会長が迎えに来てくれた。現状、四棟の茅葺き家屋が残る。当地は金山峠の旧道とともに国の史跡である。まず大黒屋を見学、中級の旅館だったという。因みに上級の宿は畳に縁があり、中級は縁なし、下級は草蓆か筵敷きであったそう。次いで庄内家、庄内藩の殿様が宿とした脇本陣、近くに明治時代に竣工した石造眼鏡橋・新橋がある。橋を渡ると佐藤家住宅・旧松本屋、坂を登れば武田家住宅がある。

ここは農家を兼ねた庶民向け宿であった。次いで瓦葺きに改装された山田家住宅へ。この蔵座敷を東北芸術工科大学の学生が「ヤマガタ蔵プロジェクト」の活



動に活用している。

次に、県道263号に出て東に進む。緑は深くなり、道端には10匹ほどの野猿が見られた。10分ほどで古屋敷村に着く。古屋敷村保存会斉藤会長が案内してくれる。昭和53年(1978)、ドキュメント映画「ニッポン古屋敷村」が撮影された時点では18軒の茅葺き民家があった。その後、上山温泉の著名旅館が観光拠点へと進出したが、結局撤退し現住家屋は2戸のみ。古屋敷村保存会は東北では珍しい茅葺き二階建ての蚕室保存を目的に結成、その蚕室も残念ながら数年前崩壊したという。

次の訪問地は尾形家住宅、尾形家72代当主尾形宗一氏が「この建物は重要文化財、私は隣の文化住宅に住んでいる、文化的環境」という軽妙な語り口で案内してくれた。茅葺き中門造り、厩は切妻、通常は馬1頭だが当家は2頭を保有していた。昭和51年(1976)に半解体修理復元した費用は5千1百万円、昨年全面葺き替えには5千5百万円かかったとのこと。お願いしていた時間通り、ユーモアを交えた解説はまさにプロの技術、重厚な建物とともに感心させられた。

上山市内に入り上山武家屋敷を訪れる。上山武家屋敷保存会森本会長、森本家16代当主森本登志郎氏が案内してくれる。現状、森本家、三輪家、山田家、旧曾我部家の4軒の茅葺き武家屋敷が残り、市の文化財に指定。いずれも1800年頃築と推定され、2軒が1組となる中門造りである。最盛期は150軒ほどの屋敷あり、上山城外郭の砦の役割を果たしていた。



上山市から国道13号を南下、米沢市から県道151号をさらに南へ、吾妻山麓の白布温泉、茅葺きの宿・西屋に着く。かつて茅葺きの宿が3棟、東屋、中屋が並んでいたが中屋から出火し東屋が類焼した。東屋は再建されたが、茅葺きを復活することは叶わなかった。西屋の源泉掛け流し・湯滝を堪能、地場の食材主体



の夕餉を味わいつつ、懇親会が催された。翌12日、宿を発ち米沢市南郊の石垣町へ。茅葺きの武家屋敷・青木家を訪問、15代当主・青木氏のお話を伺う。上杉家が会津90万石から米沢30万石に減封された際、城下に居住できなくなった下級武士は当地で間口6〜8間、奥行き25間の荒地を支給され、開墾し居住した。お住い裏手の畑の一部にはススキが植えられ、茅葺根の補修に用いられているとのこと。



次に訪れたのは石垣町のやや北側の芳泉町、芳泉町武家屋敷保存会会長山岸圓次郎氏が案内してくれた。街の成り立ちは石垣町同様、会津から徒歩で米沢に移った下級武士たちが開墾した地だ。当地の特徴は、松川・最上川本流の治水機

能も果たしたことだ。当地から1〜1.5km上流寄りに、直江兼継の指揮で築いた直江堤がある。増水時、堤から溢れた水を流す水路を川除（かわよけ）と呼び、それが集落内を通っていた。さらに、増水時の水を制御する蛇堤（へびづつみ）の一部が残っている。垣根は春に食用になるウコギが植えられていたが、近年は減少しているという。茅葺き武家屋敷は現状、北部に5棟、南部に3棟が残っている。蛇堤見学後、北端の春日家を訪問。元々市内に居住していたが、家屋の維持のため戻って来られたご当主のお話を伺った。奥様は当地の慣習を古老などから学ばれ、それを実践されているという。







そこからバスは東に進み、奥羽本線関根駅近くの普門院に。現在、茅葺きの庫裏の解体修理工事中、当院について住職の奥様からお話を伺い、工事の概要を担当の吉田建設・小畑さんが説明された。茅屋根などの工事現場を巡り、次の

で茅葺きの本堂を見学した。本堂には米沢藩主・上杉鷹山公の居室があり、お泊りに際しては米沢城から用度品が運ばれたという。庫裏は築224年、本堂は築220年を数える。庫裏の修復が済み次第、本堂の解体修理に入るそうだ。

来た道に戻り、奥羽本線の踏切を渡れば羽黒神社がある。社殿、社務所、楼門と茅葺き建築が3棟並ぶ。普門院と一体で国の史跡に指定されており、平成20年(2008)から4年をかけて修復工事が行われた。



バスは県道232号から国道13号を北上、米沢市から東置賜郡高畠町に入る。ほどなく茅葺きの食事処・掬亭に着く。店の事業主体・漬物の三奥屋、近清剛社長のお話を伺う。この建物は約40km離れた白川ダム建設により水没する厩中門造りの庄屋屋敷を移築、ご母堂が得意とされた郷土料理の店を昭和46年(1971)に開業した。店名は本業の漬物屋と最上川の水を掬う、に因んだ。昼食は置賜の秋を味わい、漬物・残菊をお土産にいただく。



再び米沢市に、北郊・六郷長橋にある  
築約130年・中門造りの茅葺き農家、  
坂野家を訪問。ご当主坂野さんが出迎え、  
茅葺き職人・赤井橋さんから当家の茅屋  
根の構造・名称・用材などについて詳し



く解説していただいた。帰りに坂野さん  
から全国コンクールで9年連続特別裁判  
米を受賞している「九代米」をお土産に  
いただいた。

次いで米沢市の北西・東置賜郡川西町  
大舟の竹田家へ。茅葺き中門造り・煙出  
しの見事な主屋の周りに茅葺きの稼ぎ場  
と蔵2棟が並ぶ。ご当主の竹田さんが出  
迎え、当家が映画・蔵野行のロケ地となっ  
たことなどを伺う。また当家の茅葺き職  
人さんが入院され困っていたが、一行に  
坂野さんと同行されていた赤井橋さんと  
早速相談が始まった。



バスは米沢市に戻り、15時頃米沢駅に  
着く。ここで1泊2日の行程を終え解散。  
今回の行程は見所が多く濃密であった。  
住いは地形、気候、生業に即して建てら  
れる。天然素材を利用する茅葺き家屋は  
特にその影響を色濃く受ける。街道の宿  
場、城下の武家屋敷、開墾・治水などを  
責務とした武家屋敷、優良米を栽培する  
農家等々、茅葺き民家には風土の記憶が  
こめられ、継承されているようだ。今回  
の研修見学会実施に大きなご尽力いただ  
いた、山形県茅葺き文化研究会事務局長・  
田上正典氏、現地でご対応いただいた皆  
様はじめ、関係された全ての方々に、厚  
く御礼を申し上げる。

(文・柳沢道生 写真・事務局)

## 第7回茅葺きフォーラム（および日本茅葺き文化協会総会） 「信州戸隠 高距御師集落と茅葺き」

主催 日本茅葺き文化協会  
共催 戸隠中社・宝光社地区まちづくり協議会、一般社団法人戸隠観光協会  
後援 長野市、長野市教育委員会、戸隠神社、ながの観光コンベンションビューロー、  
戸隠地区住民自治協議会、NPO 信州伝統的建造物保存技術研究会  
日時 平成27年6月11日（土）～6月12日（日）  
会場 ○フォーラム・総会：戸隠観光情報センター 2F（JR 長野駅から車で30分、バス60分 戸隠中社前）  
○情報交換会：戸隠観光情報センター 1F  
○宿泊：宿坊に分宿（中社・宝光社）

### 【6月11日（土）】

11:00 開場、受付開始  
11:30 日本茅葺き文化協会総会  
昼食（自由）  
13:30 第7回茅葺きフォーラム  
上野美帆（日本茅葺き文化協会理事）  
開会あいさつ  
日本茅葺き文化協会代表理事 安藤邦廣  
長野市長 加藤久雄  
13:40 講演  
「高距御師集落としての中社・宝光社」  
宮下健司（元長野県立歴史館総合情報課長）  
14:10 ティータイム  
14:25 第1セッション 開催地より「信州戸隠の茅葺き」  
コーディネータ：米山淳一  
（地域遺産プロデューサー・日本茅葺き文化協会理事）  
「開催地紹介 戸隠 伝統的建造物群保存地区へ」  
長野市教育委員会  
「戸隠の集落と民家とその特徴」  
吉澤政己（NPO 信州伝統的建造物保存技術研究会）  
「戸隠の生活文化、活動、これから」  
戸隠観光協会  
「信州の茅葺きの技」  
松澤敬夫 小谷屋根  
15:55 ティータイム  
16:10 第2セッション 各地からの報告  
「嫉妬の棚田と茅葺き」矢島宏雄（長野県千曲市歴史文化財センター所長）  
「白馬小谷の茅葺き屋根 震災被災の現場で見たこと」  
長谷川順一（新潟県・住まい空間研究所）  
「ITS2015 総会 スウェーデン大会の報告」塩澤実（京都府・茅葺屋）  
「次期開催地 紹介」  
17:50 閉会  
18:00～20:00 情報交換会  
同時開催 茅葺きパネル写真展

### 【6月12日（日）】

6:30～7:30 中社または宝光社で神楽奉納  
8:00 朝食  
8:50 中社地区宿泊者 バス移動  
9:00～10:30 宝光社、宝光社地区茅葺き、葺き替え現場  
10:30 中社地区へ移動  
10:45～11:15 宿坊極意 拝殿及び宿坊 見学および説明  
11:15 茅場へ移動（徒歩10分、バス3分）  
11:30～12:00 茅場 見学  
12:00～13:00 昼食 そば（中社地区3軒に分かれる）  
および中社地区見学  
13:00 奥社へバス移動  
希望者 戸隠→長野駅 送迎バス（所要時間30分程度）  
13:30～15:00 奥社見学（徒歩にて往復1.5時間程度）  
16:00 解散 長野駅へ送迎バス  
参加費 資料費 一般2,000円  
会員・学生・戸隠観光協会会員1,000円  
情報交換会費 3,500円（各地の飲みもの持ち込み大歓迎！）  
宿泊費 7,500円（税込・1泊朝食付）  
見学会費 2,000円（昼食代含む）

お申し込み、お問合せ先  
一般社団法人日本茅葺き文化協会事務局  
〒300-4231 茨城県つくば市北条184  
tel: 029(867)5829 fax: 029(867)1083 email: info@kayabun.or.jp

#### ◎交通案内

#### ○公共交通機関をご利用の方

総会、フォーラム会場へは、JR「長野」駅東口

ゆめりあバスパークから送迎バスあり

総会出席者（会員）：

東京駅発 8:36 かがやき505号 → 長野 10:02

送迎バス 東口ゆめりあバスパーク 10:20発 → 会場 11:00着

一般参加者：

東京駅発 10:32 かがやき509号 → 長野 11:52

送迎バス 東口ゆめりあバスパーク 12:20発 → 会場 13:00着

#### ○自家用車をご利用の方

宿泊予定の宿坊駐車場または会場近く中社地区当日専用駐車場をご利用下さい

## 茅ふきたより 第16号

2016年5月31日発行（非売品）

発行：一般社団法人日本茅葺き文化協会

編集：茅ふきたより編集委員会

一般社団法人日本茅葺き文化協会

〒300-4231 茨城県つくば市北条184

TEL/FAX 029・867・5829

E-mail info@kayabun.or.jp

URL http://www.kayabun.or.jp

◎みなさんの情報をお寄せ下さい！  
茅葺きについてさまざまな情報とご意見・ご要望をお待ちしております。  
茅刈り、葺き替え情報大歓迎。事務局宛までお寄せ下さい。

〈編集後記〉  
国際茅葺き協会のスウェーデン大会に参加してきました。各国の茅葺き職人たちが茅葺き業界の今そしてこれからについて、材料の品質保証や技術開発、最新の研究成果など様々な情報交換と議論をしていました。2017年はイギリス大会が予定されています。日本の茅葺き職人のみなさんぜひご参加ください！（弥）